

全國紙欠落する本質的批判

「田舎の秩序を守る強い法
意示した」(『競争』)、「秩序
の維持へ繩張示した」(『競
争』)。2回目の全国出

の社説・主張には、じんな
見出しが並びます。被爆地
・広島で開かれた主要7カ
国首脳会議（G7=広島サミ
ット）は、G7の深刻な限
界と矛盾を浮き彫りにしま
したが、各社の報道は少く
した視点はなく、本質的な
批判が欠落しています。

「競争」が「世界の主要国とのクライナの首脳が、常に争って、ロシアの侵略からウクライナを守り、国際秩序を維持する決意を示

G7サミットの報道

した意識は大きい」と評価したように、多くのメディアがウクライナとの7の【結束】を強調。[日経]

は、畠田文雄閣相がウクライナ支援の議論をけん引したと、「ウクライナの要望を受け、欧米と協力してゼレンスキー氏（ウクライナ大統領）来日の環境を整えたのも多としたい」とねぎらいました。

一方で、G7議論がこれ
らの問題で、ロンドや中国
に対するための軍事ハロッジ
の強化で対応していくこと
への批判や指摘はあるまじか
ん。世界の分断を深め、軍
事対立の悪循環をつくり
だしてしまった「TPP」を眺め
て、「TPP」の画地を詮
明するたる「日本も殺

論の強化を主張した
には批判も
なければならぬ」と断つ
ておきます。
広島の被爆者がカナダ在
住のサー・ローラン・モーリス
C7は處女作「失敗
だった」と痛烈に批評。被
爆地・広島から核兵器に固
執する言論が示されたこと
に、多くの被爆者が怒りの
声をあげておらず。メディア
アが重く受け止めるべき
が、いわへた點でめないで
しゃうか。

失つていまし。
そのため、G7側が核抑止体制を整えざるを得ない「正直に説くべきだ」の立場で結果を示した」と社説。ともかく、「核抑止力」論の強化を主張しました。

地方組には批判も

なにがお困りですか」と尋ね
います。

「S席のサード一節半れども、

「爆地・広島から核兵器に固
だつた」と痛烈に批判。被

多くの被爆者が怒りの言ふ所存です。くそ

アが翻して取れぬるぐき
は、じめした讀でまなべ

七
五
九